



南国市 保幼小中連携 学力向上 推進プラン

平成 26 年度～平成 28 年度

かがやく明日への人づくり
あいさつ 掃除 授業 家庭学習
南国市教育委員会 南国市小中連携学力向上推進委員会

平成25年 12月 17日

南国市教育委員会
南国市小中連携学力向上推進委員会

1 南国市の小中連携の現状と課題

南国市においては保幼小中連携教育の取り組みの重要性や必要性が、10数年前から唱えられ、各中学校区で地道な連携活動が進められてきた。北陵中学校区が平成11年から取り組んだ、CRT等の分析結果の交流、授業交流等を中心とした実践をはじめ、鷹ヶ池中学校区の人権教育を中心とした保幼小中の連携実践等、現在の小中連携の礎となる実践が行われてきた。

一方、小中学校の教職員が交流する出前授業方式の交流、小学生の中学校体験入学や部活動体験、文化祭・体育祭への参加・見学といった行事的な交流が中心であったことに一定の課題を残した。また、学力問題や不登校・いじめ・虐待の問題等は学校種を超えて、組織的な解決を図っていくことが求められる。

そこで南国市では、平成20年度から、「南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業」を立ち上げ、「小中連携した学力向上」を柱として様々な課題解決を図るための実践研究に歩みを踏み出した。そして、平成23年度からは、第2期の3年計画（平成23年度～平成25年度）で「南国市小中連携学力向上推進プラン」を策定し、学力向上の基盤となる規範意識の育成や家庭学習の定着を加えた、「規範意識の育成」「授業改善」「家庭学習の定着」を重点取り組みとして南国市全体として小中連携した学力向上による課題解決の取り組みの推進を図ってきた。

こうした事業の結果、各中学校区や各学校での実践の中には、学力向上に向けた小中連携が確実に定着してきおり、各種学力調査では算数において、ほぼ全ての学年で全国平均を上回る成果を得ることができた。しかし、全国学力・学習状況調査における活用に関する問題や国語、理科、英語においては依然として厳しい状況が見られている。さらには、小学校低学年での学習規律の乱れや学力の定着にも厳しさが散見されるなど、新たな課題も見られるようになってきている。

このような状況を踏まえ、次期の取り組みは、次の2点を重点とすることとした。1点目は、児童生徒の学習意欲の向上や児童生徒に身につけさせたいスキルを意識した授業改善を進めるために「キャリア教育の視点に立った小中連携による学力向上の実践」を推進すること。2点目はより長いスパンで身につけさせたいスキルを系統的・継続的に育成する「保幼小中連携プログラムの実践」を推進することである。

南国市の保育・教育の総力を挙げて、学習指導上の課題や生徒指導上の課題を克服し、南国市学校教育指標「かがやく明日への人づくり」を具現化するために、すべての教育活動をキャリア教育の視点で見直し保幼小中連携した学力向上の取り組みの推進を図っていくことが事業3期目の主眼である。

2 保幼小中連携教育の意義

子供たちに「生きる力」（確かな学力、豊かな人間性、健康と体力）を育むためには、就学前の保育、幼稚園、小学校と中学校という校種や時期で捉えるのではなく、南国市の15か年の保育・教育を見通した、子供たちの発達段階に応じたきめ細かな、系統的・継続的な教育を行う必要がある。

保幼小中連携教育の意義は大きくまとめると、以下のものがあると考え取り組みを行っている。



A map of Nankoku City, Japan, with the city area highlighted in orange. The text "Nankoku City" is written next to the highlighted area.

- 1 保幼小中が連携して組織的に取り組むことで、個々の教職員の指導力の向上及び教育の質の向上が期待できる。
- 2 学習指導や生徒指導における幼小中学校の違いを比較研究するなかで、それぞれの長所を取り入れた系統的・組織的な指導方法の工夫・改善を図ることができる。（授業改善）
- 3 保幼小中学校の教職員の連携を深めることにより、学校間の指導の段差を解消し、個に応じたきめ細かな継続的指導を行うことで、子供たちの不安感を軽減することができる。（不安感をドキドキ・わくわく感に。小1プロブレム・中1ギャップの克服）
- 4 保幼小中学校の子供たちが交流することにより、子供たちの成長に必要な異年齢の人との関わりが体験でき、尊敬や思いやりなどの豊かな心を育むことができる。
- 5 地域の連携が深まり、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を展開することができる。

3 南国市保幼小中連携学力向上推進プラン

本プランは、南国市教育委員会と南国市小中連携学力向上推進委員会が策定する学力向上のための保幼小中連携推進を目指したプランである。

計画期間は、おおむね3年間（平成26年度～平成28年度）を目途とし、目標と具体的実践内容を示している。

南国市の保幼小中連携学力向上に向けて



南国市保育・教育指標：「かがやく明日への人づくり」



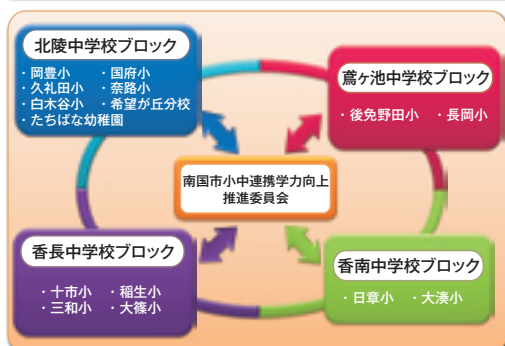
15か年を見通した系統的・継続的な保育・教育

保幼小及び小中が連携した「学力向上」の取り組みの推進

南国市小中連携学力向上推進プロジェクト事業

第1期 平成20年度～平成22年度
第2期 平成23年度～平成25年度
第3期 平成26年度～平成28年度

南国市小中連携学力向上推進委員会(注2)



南国市保幼小中連携学力向上推進プラン 平成26年度～平成28年度

実践内容：学力向上のための保幼小・小中連携による組織的なPDCAサイクル(注1)の確立

具体的実践内容

- ①キャリア教育の視点に立った小中連携による学力向上の実践
(重点取り組み：授業改善、家庭学習の定着、規範意識の育成)
- ②保幼小連携プログラムの実践

◆客観的なデータ

児童生徒一人一人の「学力の定着状況」や「心の状況」を把握し、個に応じた対応・配慮を組織的に行う

中学校ブロックアクションプラン(平成26年度～平成28年度)

実践交流

●キャリア教育の視点に立った

- 保幼小連携プログラムの実践
- 小中連携した授業改善
- 小小連携の推進
- 家庭や地域との連携
- 小中連携を図ったカリキュラム編成
- 等の取り組みをさらに推進します。

(注1)PDCAサイクルとは：どこに問題点があるかを考えて方向を定め(Plan)、その方向に則して着実に実行(Do)し、その実行結果を客観的に検証し(Check)して、改善すべき点を実務に取り組んでいく(Action)。また、それを踏まえて次のPlanを立案していくというサイクル。

(注2)南国市小中連携学力向上推進委員会：各中学校ブロックから選ばれた推進委員が保幼小中連携学力向上の取り組みについての具体的な計画等について協議を行い、全市的な取り組みを推進しています。

南国市保幼小中連携学力向上推進プラン

目 標

全国学力・学習状況調査において小学校の学力を全国上位に、中学校の学力を全国平均以上に引き上げる

実 践 内 容

学力向上のための保幼小・小中連携による組織的なPDCAサイクルの確立

具体的実践内容について

本プランでは、中学校ブロックでの研究内容を「学力向上のための保幼小中連携による組織的なPDCAサイクルの確立」とし、次の具体的実践を日常の教育活動において全教職員が一体となって取り組み、検証と改善を図っていく。

1 キャリア教育の視点に立った小中連携による学力向上の実践

【授業改善・家庭学習の定着・規範意識等の育成】

「キャリア教育の視点」とは、社会的・職業的自立を念頭に置きながら、子供たちの成長や発達を促進しようとする見方を持つことである。具体的には、社会的・職業的自立のために必要な「基礎的・汎用的能力」を育てることである。「キャリア教育の視点に立った小中連携した学力向上の実践」を行うことで、児童生徒の学習意欲の向上や児童生徒に身につけさせたい資質・能力を意識した教育活動の改善を進めなければならない。

特に、全国学力・学習状況調査の活用問題の結果からも「学力の3要素」である「思考力、判断力、表現力」に課題があることが明らかになっている。このために、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、児童生徒が主体となった授業を展開していくことができるよう授業改善を図ることが重要である。

また、各種学力調査から国語科に課題が見られることから、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を充実させることや、国語科以外の各教科等においても、教科等の特質に応じた言語活動の充実を図る必要がある。

さらに、これまでも取り組んできた、家庭学習の定着や規範意識の育成についても、「基礎的・汎用的能力」の中の、特に「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」を育てる重要な取り組みとして、引き続きキャリア教育の視点に立ち推進していく必要がある。

キャリア教育の視点に立った重点取り組み

授業改善

- 思考力・判断力・表現力の育成
- 言語活動の充実
- 基礎的な知識・技能の定着

家庭学習の定着

- 授業と家庭学習のサイクル化
- 家庭学習の習慣化
- 学校と家庭が連携した家庭学習の環境づくり

規範意識等の育成

- 基本的生活習慣の定着
- 発達段階に応じた学習規律の定着（「あいさつ・返事・掃除」の徹底）

2 保幼小連携プログラムの実践

子供や子育て家庭を取り巻く環境は、家庭や地域において人や自然と関わる経験が少なくなったり、子供にふさわしい生活時間や生活リズムがつかれないことなど大きく変化してきている。南国市においても、小1プロブレムが小学校で散見されてきており、各種学力調査においても低学年での学習の定着状況の課題が見られるようになってきている。

就学前の教育で培ってきた力が土台となり、小学校での人間関係・集団づくりがスムーズに行えるよう、さらには、幼児・児童に身につけさせたいスキルを系統的・継続的に育成していけるよう、保幼小連携プログラムの実践を全市的に推進していく。



<保幼小中連携による学力向上のための基本的な考え方>

南国市保育・教育指標：かがやく明日への人づくり

「学力向上」と「人権教育を基盤とした生徒指導」を両輪として、南国市の15か年の保育・教育で「学力・気力・体力」を十分に備え、自らの進路を自らの力できり拓くことのできる児童生徒の育成を図る。

社会人・職業人として自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していける能力や態度の育成

キャリア教育の視点に立って、教育活動を再構築

幼児・児童生徒の習得内容

- 自ら学び取っていく、知的な学習の喜び
- 教科領域における知識・技能の習得
- 教科領域における思考力・判断力・表現力等の習得

- 聞く力・話す力・書く力・読む力（資料読解・活用力、調べる力、話し合う・表現する力）の習得
- 家庭学習の習慣化（授業との一体化）
- 学習規律の定着

- 所属感・連帯感
- 郷土愛
- 自尊感情

教職員による実践内容

- 教材研究・構成・系統性（ネタの豊富さ・先生の引き出しの多さ）

- 学習規律の指導の徹底
- ノートのとらせ方
- 話合いのさせ方
- 指導と評価の一体化
- 児童生徒の意欲化
- 学習集団づくり
- 家庭学習の指導

- 実態把握・分析
- 学級経営
- 児童生徒理解（心理・心情をしっかりと把握）

各教科領域の指導技術

教科領域共通の指導技術

言語活動の充実

問題解決的な学習

思考力・判断力・表現力等の育成

活用

知識・技能の習得

主体的に学習に取り組む態度

子供

信頼関係

教職員

保護者

地域の人々

- 毎日の生活の基礎・基本（基本的な生活習慣等）
あいさつ・返事、掃除・整理整頓、学習の準備、身だしなみ、友だちづきあい、場にあった言動、早寝・早起き、食事、安全への配慮 等

- 保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校、家庭、地域で連携を図った発達段階に応じた継続的な指導

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア教育は、子供・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。したがって、キャリア教育は、子供・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子供・若者の姿なのである。

社会的・職業的に自立するために必要な能力

基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

自己理解・自己管理能力

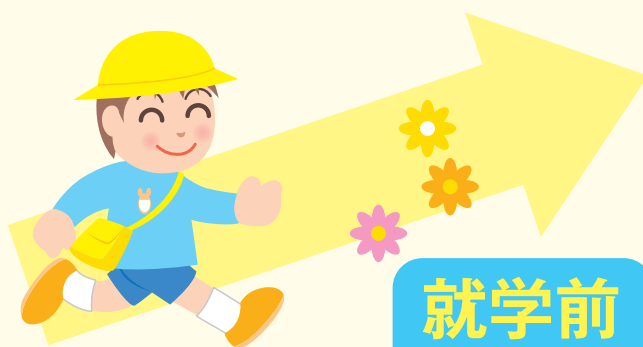
自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

課題対応能力

仕事をするうえでの様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。



就学前

——生きる力の基礎を培う時期——

キャリア教育の目標

- 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う
- 自立心を育て、人と関わる力を養う
- 様々な環境に好奇心や探求心をもって主体的にかかわろうとする力を養う
- 言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う
- 感性と表現する力を養い、創造性を豊かにする

キャリア教育を推進するためのポイント

- 幼児期における教育は、幼児が主体性を十分発揮する生活や遊びが展開できるよう、計画的に環境を構成し、一人一人に応じた援助を行うことが重要です。
- 一人一人を生かした集団を形成して、人とのかかわる力を育てることが重要です。
- 集団生活の中で自己を発揮し、保護者や他の幼児に認められる体験を通じて自信を持って行動できるようにすることが大切です。

キーワード

- ☐ 発達を見通した組織的・継続的な取り組み
- ☐ 遊びをとおしての総合的な指導
- ☐ 小学校への円滑な接続
- ☐ 保護者や地域と連携した創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う



発達段階に応じ、就学前・小・中・高が
連携してすすめるキャリア教育！



小学校

—進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期—

キャリア教育の目標

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

キャリア教育を推進するためのポイント

- 小学校教育のあらゆる場面には、キャリア教育として活用できる多くの教育活動があります。だからといって「何をしてもキャリア教育」ということではありません。
- 全教職員がキャリア教育の視点をもって、それぞれの教育の中にあるキャリア教育の「断片」をつなぎ、体系的・系統的な教育活動として実現させる意識的な取り組みを共有しましょう。
- 6年間にわたる小学校では、特に、発達段階に応じた指導が求められます。

低学年 自分の好きなこと、得意なことやできることを増やし、様々な活動に意欲と自信を持って取り組めるように

中学年 友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるように

高学年 苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れずに取り組み、そのことが集団の中での有用感や自尊心につながるように

キーワード

- ☐就学前の教育との学びの円滑な接続
- ☐児童理解・個への対応
- ☐保幼・中、家庭や地域との連携
- ☐家庭や学校での「役割」、「役割を果たそうとする意欲」の構成。



中学校

—現実的探索と暫定的選択の時期—

キャリア教育の目標

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

キャリア教育を推進するためのポイント

- 自校におけるこれまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点でとらえ直すことが重要です。
- キャリア教育の学びの中で獲得してきた能力や価値観を進路選択の重要な要素として結び付け、生徒が長期的展望に立ち、主体的に進路選択ができるようにすることが大切です。
- 職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の実現に迫ることが中心的な課題となります。
- 教育活動全体における体験活動の位置づけを明確にし、各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動とのつながりをもたせましょう。

ステップ1 自分の良さや個性が分かる。自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする。集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。将来に対する漠然とした夢や憧れを抱く。

ステップ2 自分の言動が他社に及ぼす影響について理解する。社会の一員としての自覚が芽生えとともに社会や大人を客観的にとらえる。将来の夢を達成するうえで現実の問題に直面し、模索する。

ステップ3 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。社会の一員としての義務と責任を理解する。将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かう。

キーワード

- ☐小学校との学びの円滑な接続
- ☐職場体験活動
- ☐主体的な進路選択
- ☐卒業後の進路に向けた円滑な移行支援



平成 25 年 12 月

発 行／南国市教育委員会

編 集／南国市教育委員会事務局学校教育課

印 刷／川北印刷株式会社

TEL 088-880-6568 FAX 088-880-6201